令和４年度 第２回 尼崎２１世紀の森づくり協議会　議事録

日時　令和５年３月８日（水）14時00分～15時30分
場所　阪神南県民センター別館２階大会議室

〇委員（出席者13名）　　（五十音順）

氏　名	役　　職	備　　考
秋山　徹志	兵庫県阪神南県民センター長	
今岡　政彦	尼崎商工会議所産業部長	
岸本　幸三	NPO法人尼崎21世紀の森理事	
北山　耕司	日本製鉄(株)関西製鉄所総務部尼崎総務室長	
上月　康則	徳島大学教授	
小林　卓治	尼崎信用金庫営業統括部理事執行役員	
中瀬　勲	兵庫県立人と自然の博物館館長	
藤本　真里	兵庫県立大学教授	
前島　紳作	(株)神戸新聞社阪神総局長	
松山　大輔	阪神電気鉄道(株)沿線価値創造推進室部長	
宗　和弘	アマフォレストの会会長代行	
山田　隆	日本山村硝子(株)ＣＳＲ推進室長	
横田　敏治	尼崎市社会福祉協議会理事	

■資料の確認／事務局

【資料】

資料１　「尼崎２１世紀の森構想」の取組状況（第１回協議会以降）
資料２　「尼崎21世紀の森づくり行動計画（改訂版）」における計画年度および評価指標の見直しについて
資料３　尼崎21世紀の森づくり行動計画（改訂版、令和５年３月）について
資料４　行動計画の見直し案（具体的取組の新旧対応一覧表）
資料５　令和５年度の取組について

【参考資料】

参考資料１　尼崎２１世紀の森づくり協議会設置要綱
参考資料２　令和４年度第１回尼崎２１世紀の森づくり協議会議事録

■会長による開会の挨拶

今年は、セツブンソウやザゼンソウ、バイカオウレン、スイバオウレンを見に行くことができた、まもなくカタクリも生える。春の間に儚く咲くこれらの植物は非常に貴重である。今年はようやくそれらを全部見ることができた。

本日の参加者の皆さんの中に、私が今言った植物を全て見られている方はおられないのではないだろうか。そのような、ゆったりした環境を、この公園でどのように提供していくのかが大事だと思う。

淀川河川公園では、コロナ禍で公園の使い方が大きく変わった。日当たりや見晴らしの良い場所でチェアリングをしている夫婦や、アマチュア無線でバッテリーを持参し、一番電波の良いところにアンテナを立てて楽しまれている様子も見られる。このように、自分の考え方で、自分が納得できる使い方をされるように変わってきた。植物も、人々の行動形態も、コロナの影響を受けて変わってきた。そのような意味では、尼崎21世紀の森は完全に受けとめた試みを皆さんと一緒にしているので、おそらく新たな公園の利用者を受け止めることができる良い環境が、ここにできたのではないかという気がしている。尼崎21世紀の森での取組は、近隣の方々だけでなく、日本中の様々な公園の使い方に影響を与えるであろうということを、ひしひしと感じている。

事務局から事前に資料説明をいただいているが、面白いワクワクするような中身が詰まっていると思うので、楽しみながら前向きに議論していただけたらと思うので、よろしくお願いします。

■報告事項　「尼崎21世紀の森構想」の取組状況

〇資料説明（事務局）

資料１「尼崎２１世紀の森構想」の取組状況をもとに、以下の内容を事務局より説明。

1) 森のクリスマスの開催について（報告）
2) 三原舞依選手への感謝状の授与について（報告）
3) サウンディング型市場調査の実施について（報告）
4)「尼崎21 世紀の森ＳＤＧｓ賞」感謝状贈呈について（報告）
5) 森のマルシェの開催について（報告）
5) 尼崎スポーツの森指定管理者の交代について（報告）

〇意見交換

委員：サウンディング型市場調査に参加されている事業者について、個別名称は難しいとして、業種をお教えいただくことはできないのか。

事務局：10社20社と参加があればよいが、4社と少ないため悩ましいところである。検討させていただく。

委員：森のクリスマスを12月3日、4日で実施されていたが、同日に寺町の方で尼崎商工会議所の青年部の皆さんと市役所さんが、まちの明かりのイベントを朝から実施されていた。せっかくなので一緒にコラボをして、寺町も尼崎の森もアピールできればよかったと思う。私はクリスマスの方に参加できず非常に残念であった。事前に、全体的なアピールができるのであれば、両方行く人が増えて、もっと相乗効果があるのではないか。

事務局：広報や事前の情報共有に至らない点があったかと思う。幅広い形で情報共有ができるようにしたい。改めて、事務局関係者間で広報の方法などを検討していきたい。

会長：観光業界では、お互いの観光客を送り合う「お客さんの回し合い」をされて

いる。参加者の取り合いにならないように、たくさんの人が参加してくれるように上手くイベントを作れると良い。

委員：尼崎の森中央緑地の海辺の芝生広場でにぎわい創出ということだが、海辺とあるので、海に触れたり、海を見たりできるような事業をご検討いただきたい。

会長：サウンディング型市場調査の後はどうしていくのか。

事務局：例えば、我々行政がこんなものが良いのではと思ったとしても、市場の方で参加していただける事業者はなかなか出てこない、等といったことがあると思う。今はフリーな状態でどのような施設が良いのか、どのような事業なら成り立ちそうなのかについてお聞きしている状況である。今後、いただいたご意見や、4社と引き続き対話を行い、県の内部で詰めていく。その後、事業の公募という形で、事業者を決めていく予定である。

会長：21世紀の森づくりに馴染むような事業をお願いしたい。煙をもくもく出して、森にバーベキューの匂いがするということは極力避けていただきたい。事業内容については私達からは意見ができないと思うが、事業者が決定してから委員の皆さんが納得できないような結果とならないように、県で適切な選定をしていただきたい。

委員：当社グループでは、4月1日から阪神尼崎駅周辺の中央公園や城址公園等の指定管理業務を受けさせていただくことになった。この業務では、賑わい創出をしていくことがベースにあり、様々な賑わいづくりの取組を、当社グループの方でも考えていきたいと思っているので、是非連携できればと思う。特に、中央緑地の指定管理でお世話になっている当社グループの阪神園芸が、実務リーダーとして動くことになると思うので、阪神園芸を中心に情報共有・情報連携をさせていただければと考えている。

会長：私も良いと思うので、是非よろしくお願いします。別の市役所で、指定管理に関する仕事をした際の事例で、とても良い提案を出していたことがある。これから、学校スポーツを地域に委ねると文科省が示しており、それを引き受ける拠点とする等、新たな国の動きに対して早々に対応して提案されている。おそらく、文科省はスポーツだけではなく、文化的な活動も委ねようとしていくと思うので、それをしっかりと受け入れていくということも、是非ここで用意してもらいたい。

■協議事項　（１）尼崎21世紀の森づくり行動計画（改訂版、令和５年３月）について

〇資料説明（事務局）

資料２「尼崎21世紀の森づくり行動計画（改訂版）」における
計画年度および評価指標の見直しについて

資料３　尼崎21世紀の森づくり行動計画（改訂版、令和５年３月）について
資料４　行動計画の見直し案（具体的取組の新旧対応一覧表）

〇意見交換

委員：「はじめに」について、当初は工場地帯や臨海地域をどうするかという話だったが、ずいぶんと環境も改善されてきた中で、今注目されてきている大阪湾全体で見たらどう見えているのか、六甲山関係の中でこの緑地がどのような位置づけになるのか。全体を引いてみると尼崎21世紀の森も変わって見えると思う。特に、運河の活動は大阪湾の市民との共存の中で行われる水辺づくりとして高く評価されているので、全国的にも継続している珍しい事例の１つになってきていると思う。内省的に見ても、ここまで来ているのは凄いが、引いてみると、さらに特徴やインパクトが強く見えるのではないか。そういった見せ方もあると思うので、「はじめに」の所を少し変えてみるだけで雰囲気が変わると思う。そのあたりを考えていただきたい。

事務局：ご指摘の通り、尼崎だけでなく大阪湾ベイエリアの中でどのようにしていくのかということを焦点として入れておけばよいと思う。文案を考えさせていただく。前回の協議会のご意見で、大阪万博の会場に中央緑地の苗木を持って行くというご意見があった。また、尼崎の運河の取組を兵庫運河の関係者の方が見学され、尼崎の運河を見習って水質浄化施設みたいなものを作って連携できないかということを模索する話も出ている。このように、他の地域との連携も視野に入れた取り組みを考えていきたい。具体化については今後ご相談させていただく。

委員：当社は大阪・関西万博の共創パートナーの認定を受けており、チャレンジの創出に取り組むという中で、環境に良い取組の持続を支援していきたいということを、中心に考えている。我々の取引先もSDGsを非常に意識しておられる。これに関した取組として、以前は植樹祭でお客様をお呼びしていたが、直近２年間では除草や間伐といった森の育成にかかわる取組をアマフォレストの会やパークセンターの皆様に助けていただきながら実施させていただいている。大阪湾ベイエリアの活性化という視点では、行動計画改訂案に記載いただいている尼崎市以外から多くの人を呼び込むという点について、我々の取引先は大阪から阪神エリア全域にいらっしゃるので、それを活かして森の活動を広くアピールしていきたいと考えている。

委員：委員と一緒に10年に渡り尼崎運河で活動させていただいているが、干潟を活用、ということについては南堀のあたりのことですね。たくさんの鳥がいますので是非よろしくお願いします。もう少し浅く広く、私の考えとしては、運河もそうだが、日本の観光、尼崎や兵庫県の観光と海外との違いはナイトライフが非常に薄いということがあると思う。シンガポールには、子どもたちが夜中まで遊べる所があり、非常にお金が落ちるサイクルになっている。尼崎運河も、尼崎自体もまだまだ観光に力を入れていくにあたり、私が目を

付けているのは、蓬川や運河の夜の活用。5年前からキャナルフライデーを始めさせていただいて、今年はもう少し回数を増やして定着化させようと思っている。そうすれば大阪との連携や尼崎にもう少し人が流れてきてくれるのではないか。21世紀の森の活動もしているが、大阪でも起こったことが問題化することが多い。SUPでのゴミ拾いについて、現在は大阪ではきちっと整備されていて、拾ったゴミを大阪市が産業廃棄物として引き取ってくれる。一方で、４月から尼崎市では私たちが運河で拾ったゴミをお金を払って捨てなければならない状況である。運河で拾ったペットボトルを洗ってラベルを剥がして分別してというのを求められている。運河でのゴミ拾いを続けられるかどうか疑問である。大阪でも3年前まではそのような状況だった。今年どうするか迷っている。尼崎市の市民団体でゴミ拾いサミットみたいなものを来年から立ち上げる方がおり、尼崎運河だけでなく、NPOや様々な団体が塚口や武庫之荘などいくつかあり、街中で拾ったゴミをどうしたらよいのだろうか、ということになっている。県の案件ではないかもしれないが、ボランティアで拾ったゴミをある場所に持って行くと無料で産業廃棄物として引き取っていただける、スケジュールを伝えておけば次の日には持って行っていただけるというようなシステムを作っていただければ、ゴミ拾いの活動がしやすくなる。そういうことも考えていただきたい。

会長：本日は市の方はご欠席なので、調整しておいていただきたい。

委員：アクセスの改善が挙げられているが、中央緑地は臨海部の一番南側あるので、地域住民が直接アクセスできる公共機関が無い。遠回りしていかなければいけないので、地域住民が直接アクセスできる手段を考えていただきたい。個人的なことであるが、趣味でバードウォッチングしている。武庫川の上流JRから河口までで、年間約60～70の鳥が見られる。中央緑地の森の方で生きものが増え、臨海部も綺麗になってきたら、もっと渡り鳥が中継地として立ち寄るようになり、私たちの趣味も楽しくなると思う。賑わいだけでなく、静かな森も作っていただきたい。

事務局：アクセスの改善については、これまでもこの協議会で度々議論になった。数年前に中央緑地へアクセスできる阪神バスが定期運航をしていたが、平日利用者がおらず採算が取れず廃止になった。そのため平日のアクセス確保は困難な状況であるが、大規模なイベント時には指定管理者によるバスのチャーターや、コミュニティサイクルステーションを中央緑地に設けて自転車を使ってもらうなど、代替措置には取り組んでいる。路線バスについては要望はしていきたいが、採算が取れないので難しいところである。

委員：関係者の方がこの行動計画を見た時に、自分が何の役割を担うのか見たいと思う。各取組に活動主体のイメージとして書かれているが、一覧になっているところに、役割分担の表を入れるなど、事業計画に対して誰がやるか明確に分かる方が良いのではないかと思う。取組の実施にあたって、これは県が実施した、これは市が実施した、これについては新たに企業が参画した、な

ど確認ができると思う。イメージとして県や市と書いているが、ほとんど市が実施した、指定管理者がほとんどやっていた、といったことが確認できる方がよい。県・市・指定管理者と書いているものが多いが、役割のあり方がそれぞれ違うと思うので、それを明確にするだけでなく、何を実施して、何をしていくべきかが分かれば事業のイメージがしやすい。また、担当者が変わっても引き継ぎという意味でも計画のイメージが明確に分かると思う。

事務局：それぞれの項目にそれぞれの役割が誰になるかを明確に記載した方が良いというご指摘だと思う。そのように示すことができれば良いのだが、複数の事業主体が絡んでくるところもあるので、検討させていただきたい。

委員：書いたら絶対やらないといけない、と考える必要はない。計画者がこうすべきと思って想定するものがあって初めて、関係者へ伝える必要がでてくる。そのくらいのことで、複雑なことではない。

事務局：活動主体のイメージとして記述しており、義務付けているわけではない。複数の主体が絡むところもあるので、そこを明確に分けるとそれぞれ決まってしまうと思う。役割を振り分けると責任主体として捉えられてしまう恐れもあると思うので、検討させていただきたい。

会長：今回の議論は行動計画だが、21世紀の森構想そのものにおいて、公園部分と、国道43号から海のあいだの工業地帯と、そのあたりが分かるようにした方がよい。運河のことや中央緑地の第3工区の話などがところどころに記載されているので、全体像が分かるようにした方が今日の議論が分かりやすいのではないか。

在来種でこんなに森づくりを進めていることはほとんど出ていない。在来種で、地域の苗で森を育ててみんなで賑やかな場所を作ろうとしているということは、筋として外してはいけないと思う。これに対する大事な指標は何なのか、もう一度考えていただきたい。入園者数と植樹本数も、それはそれで良いが、筋を外さないで書いていただいたら、環境をベースにしながら賑わいを作っているという21世紀の森構想全体の大きな流れが見えやすいと思うので、頭に入れながら考えてくのが大事だと思う。

PDCAで評価するということも今回はこれで良いかと思うが、もっと考えていただきたい。今までは目標とする数字があって、数字が減った、増えたで良かったが、これからは質的な評価を先行することを考えれば良くなると思う。森構想の次期改定の時に議論されたら良いかと思う。

最後に、渡り鳥や野鳥観察の話に関連して、結構面白くなっている。環境省が4月から30by30、陸域の30％、海域の30％を生物多様性の地域にしましょう、という計画が始まる。森構想の区域全体が30by30のOECMの区域として兵庫県で一番に登録されるくらいの迫力を持って取り組んでいただければ、素晴らしい生物多様性の環境の中で楽しいイベントをしているという、まさにここで皆さんが議論している基本となる。この基本を共有して、尼崎21世紀の森がなぜ良いのか、他との区別化を議論されたら良いと思う。

事務局：位置が分かるようにというお話について、主な取り組みの位置図みたいなものを追加で入れさせていただこうと思う。30by30の情報を私たちも収集しており、ご期待の通り取り組めるかははっきりここでは申し上げられないが、前向きに考えていきたい。

■協議事項　（２）令和５年度の取組について

〇資料説明（事務局）

資料５　令和５年度の取組について

〇意見交換

委員：環境体験学習についてはアマフォレストの会とパークセンターが一緒に年間20回ほど実施している。環境体験学習のプログラムでどのようなことをするのかをまとめた冊子がある。尼崎市の環境整備局が尼崎市内の小学校に配るということで、アマフォレストの会も冊子用の情報を提供している。県で独自に一から調べるより、もうすでにあるものを活用すれば、西宮や伊丹にも広げることができるかもしれないし、手っ取り早く作れるのではないか。

事務局：是非活用させていただきたいと思う。

委員：去年、コロナ禍で反省していたのは、例えば大阪でウナギがとれたというニュースがあったが、5年前に尼崎運河にもいた。尼崎の運河の上の方にワタリガニが沢山いたが、広報がうまくできていないなと思った。テレビで大阪湾にタヌキやコアジサシがいることが取り上げられていたが、尼崎にもコアジサシはいる。将来的に、中央緑地の森にも、どんな繋がりかは分からないが、大阪湾にいるのであれば来るだろうと思っている。そういう時の対策なども考えられているのか。

会長：気の毒なことに、コアジサシは工事の場所ばかりに集まる。工事が無くなると居場所がなくなるのだろうか。兵庫県の淡路島の港湾で整備している海岸にはチドリが生息しているが、公園や海水浴場は綺麗に掃除するのでチドリが生息できない。公園にしたらチドリがいなくなるという矛盾がある。

委員：今度、運河〇〇クラブの総会があるので、その場で自然が凄く戻っていますというような良い話ができれば、新聞社さんなどに伝えいただいて、運河が綺麗になっていることを、来年はアピールしていきたいと思う。

委員：21世紀の森構想を策定して20年が経過する。昨年の4月に赴任してきたが、この20年の成果があまり知れ渡っていないと感じた。赴任当初ということもあり、本年度すぐに何かをすることはできなかったが、環境をベースとして

賑わいを作り、まちづくりを進めていくというコンセプトで、20年間でどう変わってきたのか、そして今後どうするのかというのをしっかり１つに情報をまとめていくというのが大事だと思う。それぞれで実施されていることを繋ぎ合わせて一体で発表していくということを一つの切り口として、次年度の取組として挙げていることを、各委員の皆さまと情報を密に交換しながら連携して取り組んでいきたいと考えている。今日のご意見を参考に進めていきたいと思うので、ご協力の程お願いしたい。

委員：広報の件に関連して。委員から尼崎運河にウナギやワタリガニがいた、いると聞いて驚いた。委員のように地域をよく知る方から、さまざまなお話をお聞きするだけで面白く楽しい気分になる。ぜひ、広報をして尼崎や近隣市町の人たちに知ってもらいたいと思う。この会は県民センターが事務局をされているが、尼崎市役所の広報課にある記者クラブには数社が常駐していると思うので、そういうところに県から声を掛けていただくか、直接ネタ元から記者クラブに話題提供をしていただくとよいのでは。森構想についても市役所の広報課をもっと活用できればいいのだが…。新聞社を特定せずに記者クラブを通じて楽しい話をぜひ広く世間に伝えていただきたい。県民センターにも是非協力してほしい。

先日、西宮市内で“西宮市のまちづくりの未来”をテーマにした高校生対象の作文コンクールがあり、審査に関わった。ある高校生が「尼崎市では21世紀の森という100年かけた素晴らしい構想が行われていて、ゼロから新しい自然を作り出そうとしている。こんな素晴らしいことをなぜ西宮ではできないのか」と、高校生らしい素朴な書き方でつづっていた。この協議会に関わっている者として非常にうれしかった。この高校生がどこで尼崎の森構想を知ったのか分からないが、森構想の取り組みが広まっている事例の一つとして紹介させていただいた。

会長：兵庫県では「環境学習」としている。日本で「環境学習・環境教育基本方針」としているのは兵庫県だけである。教育は教え。上から目線。学習は皆の学び。兵庫県だけ環境学習というキーワードをずっと使っている。それを肝に銘じて、幼稚園・保育所、小学校3年生、5年、中学校2年生とシームレスに環境学習が実施されている。そして高齢者まで。幼児から高齢者までシームレスな環境学習を、ということが基本方針に書いてあるので、事務局の方も基本方針を確認していただき、うまく取り入れていただけたら、筋の通った環境学習フェスタになるだろうと思う。

ある中小企業の方から、幹部職員に生物多様性と環境問題についてレクチャーしてほしいとお話があった。海外の出張の際に雑談で環境問題について議論できなかったら商売にならない、そのくらい海外に行くと、自然や環境に対する意識のレベルが高い。21世紀の森づくりのような取組をしている地域は日本には他には無い。海外の人に対して、ここまで着実に地球環境保全に関わる試みは他には無いというくらい自慢するのが、この21世紀の森づくりの役割のひとつであると思う。市民が種を大事に採ってきて育てていることや生物多様性の取組を見てもらって、それから民家で勉強されるのが良

いと思う。そういう上手いストーリーを環境に熟知したレベルが高い人に対してサービスするんだというくらいの迫力でチャレンジされたら良いと思う。

委員：環境学習についてこれから調査され、新しいことを考えるという計画になるので、調査の段階で小・中・高校といった学校ごとに様々なプログラムを持っていたり、テキストを持っていたり、それぞれにやり方があると思うので、それに合う形で、申し込み方法や内容などをご検討いただくとよい。学校も忙しいので新たなもの取り組むというのは可哀そう。そういう視点でも調査されると非常に取り上げていただきやすいものになると思う。

会長：高校生の発表の場を提供するなど、生徒が必要としている場を、どのようにセットするのかそういったニーズを調査されるとよい。

委員：近年は受験でも討論や発表の技術が求められている。高校生の発表の場については需要があると思う。本番の前に試しに発表をするということがあるので、そういったことに合致すれば、高校生がたくさん来ると思う。

会長：こういった情報をしっかり集める必要があるので、しっかり調査していただきたい。

事務局：委員のご指摘の通り、学校側のニーズをしっかり把握する必要があるとともに、児童・生徒の発表の場も必要ということで、コロナ前は県立小田高校がスーパーサイエンススクールで発表したりしていた。そういった情報も把握して、発表の場に関するニーズを探っていきたい。会長からご指摘いただいた海外の方へのPRについても考えていきたい。

会長：環境系の大学の先生から、なぜ兵庫県だけこんなことができるのかと驚かれた。生物多様性の森づくりを、日本でこの規模でやっているところはどこにもない。そのことを意識していただきたい。

委員：前回の森の会議でもお話しさせていただいたが、木がとても成長しており、間伐が必要になる中で、その間伐の量が今後どの程度、毎月、毎年出てくるかということが分かれば、木質バイオマス発電などでそれがどの程度のエネルギーになるのか、どのくらいスプーンやフォークが作れるのか、量によってやれることが決まっているので、リアルな数字があれば協議会でも話し合えるのではないかと思った。

会長：森づくりの担当が把握していると思う。どれだけ間伐する予定か把握していて、それをリサイクルして燃料に使って欲しいと、そこまで提案をしようとしている。第三工区でバーベキューすることになれば、炭を買っていただいて、域内で地産地消をしてもらおうという提案である。

委員：木質バイオマスで発電できるのであれば、中央緑地の機械、さらに大きけれ

ば船を走らせるようなことができればよいと思う。

会長：21世紀の森もエネルギーや環境に関するクローズなシステムをこれから先考えていけば良いテーマになると思う。

■閉会

以上